opusdei.org

属人区長の手紙 (2023年2月16日) 兄弟愛について

この書簡の中で、フェルナンド・オカリス師は兄弟愛が示される行為について考察するよう招きます。

2023/02/23

愛する皆さんへ。イエスが私の子ど もたちを守ってくださいますよう に! 1. この手紙で、皆さんと一緒に、幾度も黙想してきた主の次の言葉に含まれる幾つかの側面を熟考するよう招きたいと思います。「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である」(ヨハネ15,12)。

イエスは、私たち皆のため、一人ひ とりのために、自らの命を差し出し てくださるほどに、私たちを極みま で愛してくださいました。私たちは それを知っていますが、もっと生き 生きとした行動的な信仰によって信 じたいと望み、使徒たちのように主 に願いましょう。「私たちの信仰を 増してください」(ルカ17,5)。こ うして、私たちは聖ヨハネと共に、 まったくの確信をもって口にするこ とができます。「わたしたちは、わ たしたちに対する神の愛を知り、ま た信じています| (1ヨハネ4.16)。

「神は愛」(1ヨハネ4,8)であり、 私たちを愛に招いておられます。

「それはわたしたちのもっとも崇高な召命、至聖なる召命であり、キリスト教的希望の喜びにも結びついています。愛する人は、希望の喜び、偉大な愛である主に出会う喜びを味わうのです」[1]。

私たちの神への愛 ―超自然的愛徳― は、私たち皆への、また、一人ひと りへの神の愛に応えることであり、 主は愛の模範を自ら示し、私たちが 他者に示すべき愛の展望を教えてく ださいました。神への愛と他者への 愛は緊密に一致しているので、「兄 弟愛のどんな行為においても、多く の場合、頭でも心でも、それが神へ の奉仕なのか兄弟への奉仕なのかを 区別することができないだろう。兄 弟に仕えることは二重に神に仕える ことなのだからか| [2]。

2. 他者への愛、これが私たちの人 生において非常に重要なので、「わ たしたちは、自分が死から命へと 移ったことを知っています。兄弟を 愛しているからです| (1ヨハネ 3,14) と、言われるほどです。愛は 無数の点において発展し、世界全体 に広がります。誰に対しても無関心 でいることはできません。なぜな ら、「わたしたち一人ひとりは、神 のはからいに基づいて生まれたので す。わたしたち一人ひとりは、神か ら望まれ、愛され、必要とされてし ^[3]いるからです。

この手紙で、兄弟愛を表す様々な行為の中でも際立った幾つかの行為と表現について考察したいと思います。ある意味で聖ホセマリアの次ヨに要約できます。「使徒聖ヨとかできます。「なさい』と教えるがはいたことか。芝居がかったことをするいはないが、私は自分の心の叫

びに応じ、ひざまずいてあなたたちに頼みたい。神への愛にかけて互いに愛し合いなさい。互いに助け合い、互いに手を貸し合い、互いに赦し合いなさい」 [4]。

理解の広がり

3. 「理解」という言葉は、人間関係において、しばしば一面しれは一面とれなります。それないことがありますなが、整性では、ないなが、したがあいなが、では、とその大力では、では、では、では、ないの数えをは、がないがでは、では、ないのがでは、では、ないのがでは、では、ないのがでは、では、ないのがでは、できないのがでは、その人のでは、その人のがでは、その人のができない。ができない。ができない。ができない。ができない。ができない。ができない。ができない。ができない。ができない。ができない。ができない。ができない。ができない。

愛徳、愛の実りである理解とは、 「人を理解する」こと、つまり、そ の人の欠点ではなく、まずはじめ

に、他者の有する諸徳や良い資質へ 「目を向ける」ことなのです。1999 年8月26日、オルベイラ(スペイ ン、ガリシア地方の黙想の家)での 研修会において、ドン・ハビエルが なさった説教での言葉を思い出しま す。愛情をもって力強く仰いまし た。|他者を、その人の欠点を通し て見てはいけません。その人の徳を 通して見てください」。愛があれ ば、他者の肯定的な面を喜びのうち に見ることができます。「隣人の成 功を自分の成功でもあるかのように 喜ぶ」「6」べきです。それは、他者の 善に対して悲しみを感じるねたみと いう罪の影によって他者を見る態度 とは全く正反対の態度です。

他方、人は、私たちがいつもの知識で見ている以上にもっと価値を有しているものです。ある意味で、聖書に読むことができるあの事柄がしばしば起こります。ヘブライ人への手紙がもてなしの心を忘れないように

私たちを励し、「そうすることで、 ある人たちは、気づかずに天使たち をもてなしました」(ヘブライ 13.2)と教えています。

4. 愛から生まれる理解は、他人の 欠点や失敗にも気付かせるもので す。こうして、肯定的な面も否定的 な面も合わせて、相手の人柄を理解 するのです。そして、優れた知恵で ある愛によって、私たちは、肯定的 な面は否定的な面をはるかに超える ことを確信できるのです。どんな場 合にも、否定的な面は、その人から 離れる理由ではなく、むしろ、祈り と援助の動機となります。可能なら ば、もっと愛情を注ぎ、時には兄弟 的説諭で助けます。この愛徳の表現 一時には英雄的な一 について、私た ちのパドレは様々な言葉で強調され ました。「兄弟的説諭に努力するよ うにして欲しい。『主の共同体を飼 う者のいない羊の群れのようにしな いでください』(民数記27.17)。こ の神の業である超自然の家族が、羊飼いのいない群れになりませんように。子どもたちよ、私は常に、オプス・デイにおいては、一人ひとりは羊飼いであり羊であるべきだと教えてきた」[7]。

5. 私たち皆は弱い者ですから、他 者に対して反発や無理解の心が湧き 起こるとしても驚くべきではありま せん。しかし、そのような思いを、 何かと理由づけて受け入れるべきで はありません。むしろ、主にゆるし を乞い、愛する力を増すことができ るよう、そして、愛の実りである理 解する力をもっと増してくださるよ う主に願う時なのです。こうして、 自己の弱さに気落ちすることなく、 ついには感謝に溢れて、神に助けを 願うことになるでしょう。「あなた によって心は広くされ(ました) | (詩編119,32)。

大切なことの一つとして、他者の客 観的な欠点、あるいはあまり客観的 ではない欠点(しばしば、私たちの 見方にこそ欠点が潜んでいるもので す)に対して、自然に沸き起こるい ら立ちを制御し弱めるように戦うこ とが重要です。そのようないら立ち は理解の不足の原因となり得ます。 つまり、愛徳の不足となり得るので す。カルタゴの聖チプリアノの言葉 はとても強烈です。「愛徳は兄弟を 結ぶ絆、平和の基礎、一致に堅固さ を与える接着剤、希望や信仰の上に あるもの、施しや殉教に優るもの、 天国で永遠に私たちと共に残るもの である。ところが、愛徳から忍耐を 奪ってしまえば、荒廃してしまう | [8]

6. また、兄弟愛の実りである理解は、互いの関係において、違いに気づいた時に起こり得る差別を避けさせます。それらの相違は、実際にはほとんどの場合、性格や感受性、ま

た好みなどを豊かにする宝なのです。そのように、私たちのパドレは説明されました。「そして、あなたがたは、自然な好感や反感を超えた兄弟愛を常に実践し、真の兄弟として、緊密に一致した家族を形成する人々にふさわしい優しさと理解をもって、互いを愛さなければならないのです」^[9]。

他者を愛し、理解する努力と共に、 人々が私たちを愛しやすくすること も大切です。その意味で、以前、皆 さんへ書き送ったことを思い出して 欲しいと思います。「人々が受け入 れられていると感じ幸せになるため に、温かさ、喜び、忍耐、楽観、濃 やかさを獲得し、共同生活を気持ち よくするすべての徳を身に着けるこ とが大切です」[10]。こうして、兄弟 愛の雰囲気が醸成され、その中で、 一人ひとりが他者への愛情を強め、 主が約束してくださった「100倍」 を一緒に経験することになり、永遠 の命へと共に歩んでゆくことになる でしょう(マタイ19,29参照)。

ゆるしという宝

7. 理解は、特別に重要な現実であ る「ゆるし」と非常に密接な関係に あります。それは、ゆるしを乞うこ とであり、また、ゆるすことでもあ ります。1974年4月、私たちのパド レは仰いました。「キリスト者であ るオプス・デイにおける神の子の生 活において、もっとも神的なこと は、私たちに害を与えたかもしれな い人々をゆるすことです」。そし て、すぐに、さらりと言い加えられ ました。「私はゆるすことを学ぶ必 要がありませんでした。なぜなら、 主が私に愛することを教えてくだ さったからですし。神の子であるこ とから引き出される多くの結果や表 現を考えた時に、私たちは自発的に ゆるしについて真っ先に考えたこと がないかもしれません。しかし、私

たちが神の子であることは、「私たちが神の子である」ことと、キリストである」ことと、私りまるであるしています。とはないまない。まさいから、「ゆるすにとなったちを神に似ることが、まさい」「111」と考えるです。とはない」「111」と考えるです。

と感じないほどに、愛に生きること を熱望するのは素晴らしいことで す。

8 理解しゆるすことと同じよう に、日々小さなことにおいても、ゆ るしを乞うことを学ぶことが大切で す。たとえ、それなりの理由によっ て、自分こそが侮辱を受けた被害者 であると思えたとしても、多くの場 合、誠実にゆるしを乞う態度は人間 関係において調和を築く唯一の方法 です。神の御子が私たちに代わって 御父にゆるしを願ったのは、机上の 計算による厳格な正義によるのでは なく、他者のために何が出来るかだ けを考える無償の愛からだったので す。

子どもたちよ、このことを、とても 美しいことであるが、卑小な自分に は無理なことだなどと考えないでく ださい。確かに、とても高い目標で す。しかし、私たちが日々新たにさ れる霊的努力を惜しまないなら 一神の愛に愛で応えるなら一、神の恩恵によって少しずつその目標に近づくことができるでしょう。

奉仕の精神

9. オプス・デイにおける神の子の最大の野望は、(…)常に『仕える』ことであるべきだ」[13]。主の次の言葉を読むと、聖ホセマリアのこのこだわりを良く理解できるでしょう。「人の子は仕えられるためではなく仕えるために(…)来たのである」(マルコ10,45);「わたしはあなたがたの中で、いわば給仕する者である」(ルカ22,27)。

奉仕の精神は、愛の表れ、他者の必要事をまるで自分のことのように感じる愛情の表れです。私たちのパドレはどれほどの力を込めてこれについて説明されたことでしょう。「何度も繰り返すことをいといません。愛情はすべての人に必要であり、オ

プス・デイにおいても必要です。感 傷に浸ることなく、兄弟たちへの愛 情が常に増すように努力しなさい。 私のある子に起こるどんなことも、 まことに!とことん私たちのもので なければなりません。他人のよう に、あるいは無関心の内に生活する したのです」[14]。

互いを知り、関係を深め、積極的に 関心を持つことを妨げるほどに活動 に打ち込んでしまうなら、私たち は、知らずのうちに、まる かのように生活しかねました もたちよ、聖ホセマ仰っを いた言葉が思い起こされ、心にっ ます。「どうか、 互いに愛し ください」。

10. 他者に仕えたいと私たちは望んでいます。そうすることがイエス・ キリストに仕えることであると知っ

ているからです。「はっきり言って おく。わたしの兄弟であるこの最も 小さい者の一人にしたのは、わたし にしてくれたことなのである」 (マ タイ25,40)。それゆえ、一人ひとり が次の言葉について考察すると良い でしょう。「進んで隣人に近づき、 愛を示そうとすることによって、神 を感じることもできるようになりま す。隣人に仕えることによって初め て、わたしの目は開かれて、神がわ たしに何をしてくださったか、また 神がどれほどわたしを愛しているか を見ることができるようになりま す」[15]。

私たちは皆、他者に仕えることは、 しばしば、ある程度の努力を要する ことを経験しています。「人生を奉 仕に変えることは簡単なことと (…)考えないで欲しい。その善い 望みを現実なものに変えていかなけ ればならない。『神の国は言葉では なく力にあるのですから』(1コリ ント4,20)、他者への絶え間ない援助を実践するには、犠牲なしには不可能だろう」[16]。しかし、愛によって実行されたその努力は、常に喜びの源となるでしょう。その喜びは利己主義からは生まれないものです。

奉仕の精神は、結局、兄弟愛の表れなのです。そして、「兄弟愛は無償のものでしかありえず、決して、過去にしてもらったことや将来してもらうはずのことに報いる手段であるはずはありません」[17]。

平和と喜びの種まき人

11. 奉仕の精神の表れの一つ、ある意味で、すべてが含まれていることの一つは、「平和と喜びの種を蒔く」ことです。この平和と喜びはならいです。この平和と喜びは神のたちが所有している時のみ、与えることができるのですから、平和と喜びに成長する最良の方法は、秘跡と個人的祈りと

いう神との親密な時間を細やかに生きることです。

私たち一人ひとりの人生には、大なり小なり、様々な不安や悲しみをましみがあります。これらは、私たちの魂に忍び込む、今はであり、私たちは、今日、私たち一人ひとりに向けられた神の愛(1ョハネ4,16参照)を信じることができますし、そうしなければなりません。

私たちは自分の喜びを自分にではなく、主に根ずかせる必要があるともです。そうすれば、何があろうとでものから来る喜びを信分を忘れて、神から来る喜びととなる。その次ではなる言葉は、私たちにとができます。「悲しんではならない。主を喜れたちは自分をはならない。主を喜れたちは自分ではならない。主を喜れたちは自分ではならない。主を自分ではならない。主を自分ではならない。主を自分ではならない。

び祝うことこそ、あなたたちの力の源である」(ネヘミヤ8,10)。

12. 皆さんは、時々、私に届けてくれる手紙で、皆さんが背負ってれまが出いて書いてれまりで、おりにあなたがた一人ひとのかで、おりにあなったがた子さんのおりで、高齢のおおせ話で、おり添いたがと望んでいます。皆さんのすべての事柄を、ちないと望んでいます。皆さんのすではあり添いたいと望んでいます。出すよう努めています。

具体的なそれらの状況や、他の多くの場合においても、主は十字架で祝福なさることを思い出しましょう。そして、私たちのパドレが豊かなくを験によって確信をもって教えて連ったように、「本物の愛には喜びが伴うが、その喜びの根は十字架の形をしているのだ」[18]。そのよび、私愛を素晴らしく生きるならば、私

たちは決して孤独ではありません。 私たちは皆一緒に 一cor unum et anima una (心も思いも一つに) 一、主の甘美な十字架という重荷を 担うのです。しかし、心の中では、 結局、主の軛は負いやすく、その荷 は軽い(マタイ11.30参照)ことを確 信しています。この意味で、次の聖 ホセマリアの言葉を、自分の生き方 にしたいという誠実な望みをもっ て、幾度も読み、また黙想したこと でしょう。「自己を忘れて人々の奉 仕に専念することは、非常に効果的 であり、神は喜びに満ちた謙遜を もってそれに報いてくださる」^[19]。

家族生活

13. 皆さんのほとんどの人たちは、オプス・デイのセンターに住んでいません。しかしながら、私たちのパドレが書いているように、「子どもたちよ、オプス・デイに属する私たちは皆、唯一の家庭を形づくってい

る。私たちが一つの家族である理由は、同じ屋根の下で一緒に暮らすという物理的なことに基づいているのではない。初代のキリスト者たちと同様に、私たちはcor unum et anima una(心も思いも一つに)(使徒4,32)なっており、オプス・デイにおいては、無関心の苦渋を味わう者など、決していないだろう」[20]

 です。もちろん、これらの活動は、 センターが無くても行えます。特 に、使徒職がまだ始まったばかりの 場所などではそうでしょう。

当然のことですが、時々、仕事や健康、あるいは家族の務めなどの理由で、あるヌメラリがセンターに住なることが勧められたり必要になることがありますが、そのことが、私たちの家任や、私たちの家力を減らすようなことがあってはなりません一やり方は異なっても実際に携わっているのですから一。

14. 普通、多くの家族は、祖父母、 父母、子どもたちなど、異なる世代 が一緒に暮らしていたり、性格の異 なる者同士が一緒に暮らしていた り、あるいは、家族の中に、やや重 い慢性的病を患っている人がいたり します。これらの状況が、家族の一 致を損なう原因になる場合もあるか もしれませんが、同時に、多くの場合は、真の愛を生きることによって、そのような、あるいは他の困難な状況が家族をより固く結びつけることも事実です。

子どもたちよ、オプス・デイは大人数の家族です。その中には、それなりの年齢の人たちがおり、人柄の異なる人たちがおり、また、病人もいます。オプス・デイの家庭において、細やかな愛情を込めて病人をいたわる姿は、神のおかげにより、素晴らしい現実です。

15. センターによっては、もっと大変な状況もあります。もし、あなたが家族生活に疲れを感じたなら、因れを改善するために、疲れの原るとのが、当然の努力の結果によるものなのか、それとも愛情が冷めてきるものなのかを誠実にそるものなったさい。もし後者のケースで

あるならば、驚いたり落胆したりせず、素直に、そして大胆に、あを見ることができるよう神に願うように 励ましたいと思います。復活した主を見た弟子たちのように、主を見たまって喜びに満たされることでしょう。「弟子たちは、主を見て

一方、ある特定の性格の背後には、 その性格のあり方や行動の理由とな る苦しみが潜んでいる場合がありま す。神は私たち一人ひとりを、その 苦しみも含めて、深くご存じで、私 たち全員を優しく見ておられるので す。このようにすべての人を見るこ と、すべての人を理解すること 一あ えて繰り返しますが一、他人の立場 に立って考えることを、主から学び ましょう。「兄弟の間に真の愛があ れば、どれほどの恐れや危険が消え 失せることだろう。口に出せば清さ が失われるような気がするから、わ

ざわざ言葉に出さないけれど、とにかく、それは一つひとつの小さな行いの中で輝きを放っている」^[21]。

主が私たちに与えてくださった、実に多様な性格や社会的状況や文化に富んだこの家庭について、いつも感謝を忘れないようにしましょう。して、同時に、この家庭の中で、「互いに接する際の極めて繊細子を関」 [22]を特徴とする雰囲気と調子を維持する責任を感じるようにしましょう。

教会において、世界において

16. 兄弟愛による世話は、オプス・デイが教会の部分として、神の家族であることの表れです。互いに愛し合い、ゆるし合い、理解し合い、ゆるし合い、聖徒の方べく努力するなら、聖徒の大力によって、人類全体の一致のために、極めて直接的に貢献しているのです。聖ホセマリアは、「キリスト

者がこの世で実行すべき第一の使徒 職、言い換えれば、最も効果的な信 仰のあかしは、真実の愛が教会を支 配するよう手を貸すことです。互い に心から愛し合わなければ、そし て、攻撃、中傷、いさかいをなくさ なければ、『福音』を告げるために どれほど苦労を重ねても、人々を惹 き付けることなどできるはずがあり ません」[23]。私たちが、自分の家に おいても、オプス・デイにおいて も、教会においても、社会のどこに おいても、常に一致の道具でありま すように主に願っています。

また、兄弟愛による世話は、しばしば暗く、無関心の冷たさに苦しむ私たちの生きている世界に、光と温かさをもたらすでしょう。アソシエイトたちの家庭やスーパーヌメラリたちの家庭、そして、オプス・デイのセンターなど、私たちの家庭は、

「明るく喜びにあふれた」家庭であるべきです。多くの人々が入ること

兄弟愛を見事に生きるなら、それは直接の使徒職です。多くの人が私たちの生きている愛情を目にし、初代のキリスト教徒に対して人々が叫んだ言葉を口にすることでしょう。「彼らは何と愛し合っていることが」[24]。人々は、そのキリスト教的愛に惹きつけられることでしょう。「その愛徳は聖霊という無限の愛

に、ある意味で与ることなのである」^[25]。

* * *

17. 終わりに、皆さんと一緒に、私 たちのパドレの次の言葉を読み返し たいと思います。「心を、子どもた ちよ、互いに仕えることに心を注ぎ なさい。愛情が、イエスの至聖なる 聖心とマリアの甘美な御心を通るな らば、兄弟愛は、その人間的、神的 なすべての力をもって行われること になるだろう。それは、重荷を負う ことを励まし、重荷を軽くし、戦い における喜びを確かなものにしてく れる。それは、べたべたしたもので はなく、霊魂の翼を強め高く飛翔さ せるものだ。自己の利益を求めない 兄弟愛(1コリント13.5参照)は、進 んで犠牲を払う精神をによって主を 賛美するために飛翔することを可能 にするのだ」[26]。

心からの愛情を込めて皆さんを祝福 します。

あなたがたのパドレ

フェルナンド

ローマ、2023年2月16日

- [1] フランシスコ、一般謁見の講話、 2017年3月15日。
- [2] 聖ホセマリア、『指針』、1935年 5月-1950年9月、n. 75。 以後、著 者名の無い引用は、聖ホセマリアの ものです。
- ^[3] ベネディクト16世、説教、2005年 4月24日。
- ^[4] 『鍛』、454。
- [5] 『道』、463。
- ^[6] 大聖グレゴリオ、『福音書講 話』、6,3 (創文社)。

- ⁷ 『手紙15』、n. 169。
- ^[8] 聖チプリアノ、『善き忍耐について』、n. 15。
- ^[9] 『手紙30』、n. 28。
- [10] 司牧書簡、2019年11月1日、n. 9。
- [11] 聖ヨハネ・クリゾストモ、『マタイ書解説』、第19説教、n. 7。
- [12] 『拓』、804参照。
- [13] 『手紙15』、n. 38。
- [14] AGP, biblioteca, P01.
- ^[15] ベネディクト16世、回勅『神は 愛』、n. 18。
- [16] 『手紙8』、n. 4。
- ^[17] フランシスコ、回勅『ラウダー ト・シ』、n. 228。

- [18] 『鍛』、28。
- [19] 『手紙2』、n. 15。
- [20] 『手紙11』、n. 23。
- [21] 『拓』、767。
- [22] 『指針』、1934年4月1日、n. 63。
- [23] 『神の朋友』、226。
- ^[24] テルトゥリアヌス、『護教論』、 39。
- ^[25] 聖トマス・アクィナス、『神学大全』、II-II, q. 24, a. 7 c 。
- ^[26] 『1974年2月14日の手紙』、n. 23。

Copyright © Prelatura Sanctæ Crucis et Operis Dei pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/Zokujin-Kuchou-no-Shokan-2023-2/(2025/12/11)